

NOTE BOOK

竹島渡航記

草
野
子
迎

館

山

山
石
碑
あり

講和條約締結の秋に当りその帰途の注
せらるる日本海の孤島竹島に行く機会
を朝日新聞の好意により得た。

昭和27年11月18日記

使用船 境高校水産科練習船 朝風丸(160)
渡航者

境高校 朝風丸 船長 福浦友幸
" 機頭長 景山三郎
" 水夫 米沢昭利
" 教諭 吉岡博

朝日新聞 社会部記者 寺尾 野五郎
" (大分) 宮原 野沢敏特
" (〃) 野原 野沢敏特
以上之名

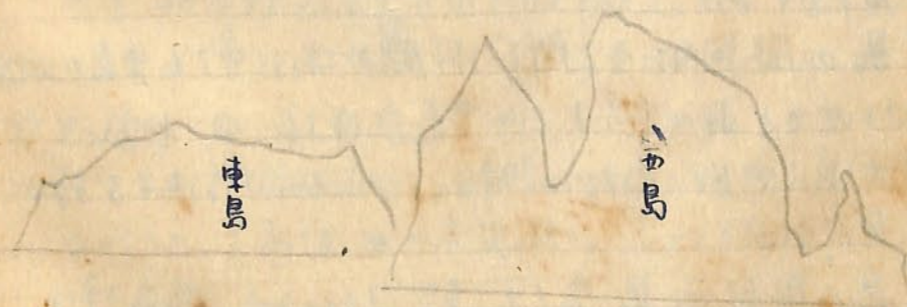
北石碑

南方の島



大正以前の事である。この島は以前においては
ラツヨウ島の東に竹島と云ふ。現在の竹島は加納島と
はなれていたが、北尾吉太郎の合圖島附近測りを経て
ラツヨウ島と加納島と取り違ふ。この故にたゞ今
海図に記載され現在に至るものである。

西北方の島



北尾吉太郎

その地島で多く見られたものに俗稱ゴんべ貝
 (*Cellana nigrisquamata* (Reeve))
 和名. かさね



俗稱 たかのつめ
 学名 *Lithotrypa Valentiana* (Gray)
 和名 いわほりあうか



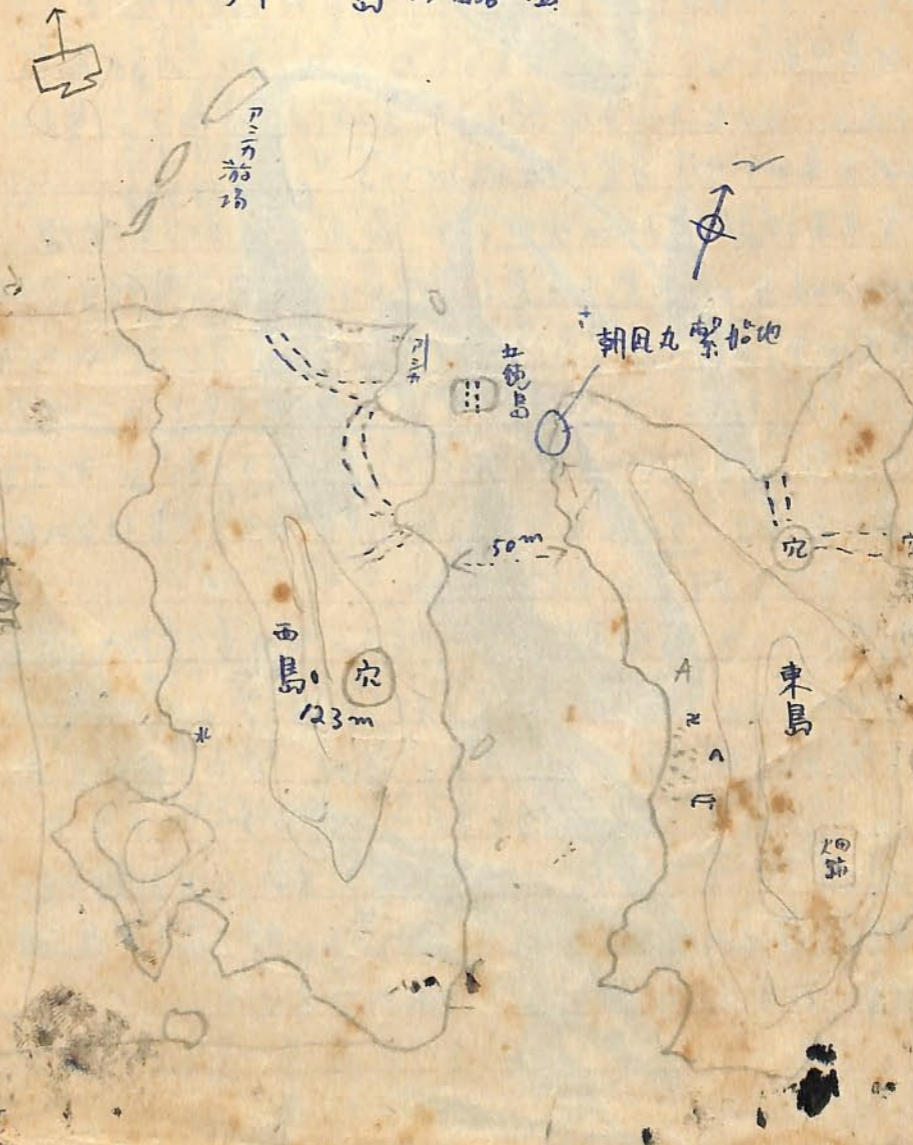
魚苗

北緯 37°9'30"
 東経 131°55'

北緯 37°9'30"
 東経 131°55'
 北緯 37°9'30"
 東経 131°55'
 北緯 37°9'30"
 東経 131°55'
 北緯 37°9'30"
 東経 131°55'
 北緯 37°9'30"
 東経 131°55'
 北緯 37°9'30"
 東経 131°55'
 北緯 37°9'30"
 東経 131°55'
 北緯 37°9'30"
 東経 131°55'
 北緯 37°9'30"
 東経 131°55'

島 高は約100mの位あり
 主要標本は此の島

リヤンコ島の略図



船中の概要

- 1951 11月13日
13²¹⁵ 境港出港 setco. ~W/W
21¹⁰ 隠岐白崎燈台並航 巡視船 ~~「すずつき」~~
「すずつき」より吾船を導導す、
針路 ~W/W に変針
風向 ~W 風力 4~5
14日 9¹⁵ 船首方向にウツリヨウ島発見 距離50哩と推定
10³⁰ ~NNE に変針
11²⁰ 竹島を船首左1隻に発見 距離30哩と推定
この3次が風波をとり風をとり視界も良好
なり。 風向 ~W 風力 2
15³⁰ 竹島着 島の周囲を一巡して陸地を
探しと陸す。
17⁴⁰ 竹島出港
針路 CCO SE/S
この3より気圧下降 (769mmより765mm)
し風を強くとり 風向 SW 風力 3~4
18日 8⁰⁰ 隠岐島の見える予定時刻より雨の音
出す
9⁰⁰ 隠岐島右発見
10⁵⁰ 西郷港入港

15日 西郷港にて碇泊

16日

10⁴⁵ 西郷港 出港

11⁰⁰ 日崎燈台並航

凡向 N.W 凡力 4~5 6時

凡浪中にて高き浪 航行危険極す

12³⁰ 巡視船「へくら」本船の近くに来る

境港入港まで周囲を廻り護衛す

16³⁰ 美保、南燈台並航

17⁰⁰ 境港 入港

以上大体竹島の概況であるが島には平地なく
樹木なく水も又甚だ乏しく人の住むとするには
甚だ不適当な場所であるが漁業を行ふと云ふ事は
固くは非常に重要な島と考へられた。

対馬暖流の早ぶ豊富な魚類資源、アサギ
等によつてイワシ、アサギ、サバ、イサナ等
又海産物の漁獲量も亦、コブ、ワカメの採集
甚して水産資源の一大寶庫と云へる。

之等の外にトド(あか)子魚、海獣、カササギ、
クマノミ、肉、脂、其に骨髄等である。

而して現況に於ては漁業制限がなされた。マウカ
カ、ラインがこの島を通過している關係と日本漁民
はたまた手を空にして見過している状態である。

之に反し対岸の韓国には早よりこの島の資源に目
をつけた。終戦後夏季の ~~静港期~~ 日本海、青森、遼東
には毎年来島し、この資源を採取している模様
である。東島のA地某にはまた新しいイサナ漁具
ゴム靴(朝鮮靴) 死者の慰霊碑等もあり又アサ
ギも採つてゐる。其の ~~魚~~ 旨味と云ふ 釜のサ 等も亦
採り置かれてある。

このまゝ放棄して置くならばやがて彼等が一切の権
利の所有を主張し日本人の立入を禁止し竹島を ~~閉~~

15日 西郷港にて碇泊

16日

10⁴⁵ 西郷港 出港

11⁰⁰ 日崎燈台並航

凡向 N.W 凡力 4~5 6 七時

凡浪中波に高くなり 航行危険を感ず

12³⁰ 巡視船「へくさ」本船の近くに来る

境港入港まで周囲を巡回し護衛す

16³⁰ 美保、南燈台並航

17⁰⁰ 境港 入港

以上大体竹島の概況であるが 島には平地なく 樹木なく 水も又甚だ乏しく 人の住むところには 甚だ不適宜場所であるが 漁業を行ふと云ふ事に 関しては 非常に重要な島と考へられた。

対馬暖流の運ぶ 豊富なる 珪管着藻類、フコウソク 等によつて イワシ、ツリ、サバ、イカ 等よく育ち 又海産物の 鱈、早流もあり コブ、ワカメの 採集 甚して 水産資源の 一大寶庫と云へる。

之等の外に トド(あか) 等の 海獣が 多量に 棲息し 其の 毛皮、肉、脂、 其に 骨髄も である。

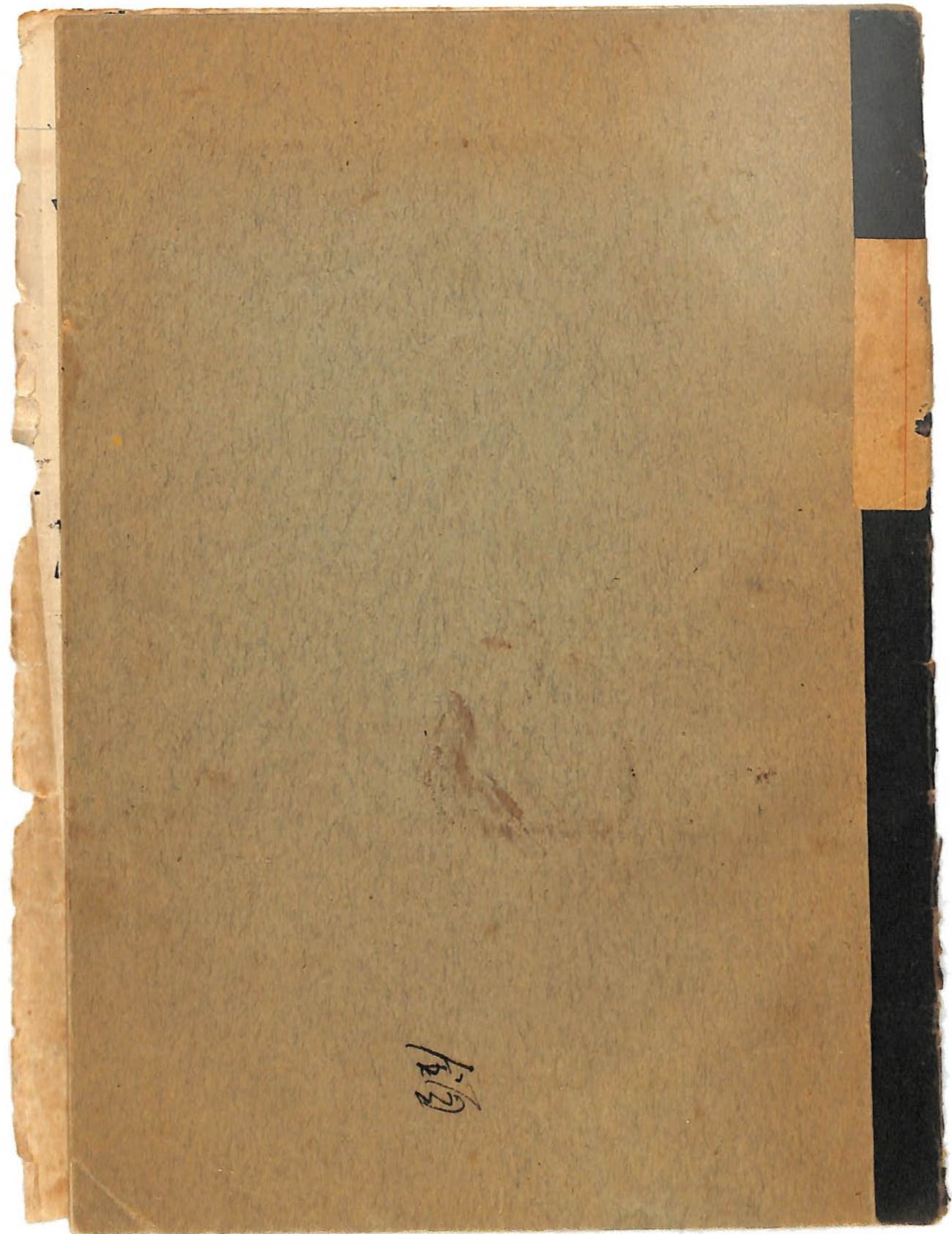
而して 現況に於ては 漁業 制限 あり かつ マウカ、ライカ、この島を 通過 している 関係と 日本漁民 は 未だ 手を 空にして 見過 している 状態 である。

之に 反し 対岸の 韓国 には 早くより この島の 資源に 目をつけ 終戦 後 夏季の 静港 日本海、青島 漁期 には 毎年 来島し 之の 資源を 採取 している 様相 である。東島の A 地 等は 既に 新い 漁具 釣竿 (朝鮮製) 死亡者の 慰霊碑 等と あり 又 アシカ も 狩つて いるらしく 其の 脂と 骨髄の 採取 等も 行つて いると 考へられた。

このまゝ 放棄 して 置くならば 或る 程度 まで 漁業が 一切の 権利の 所有を 主張し 日本人の 出入を 禁止し 竹島を

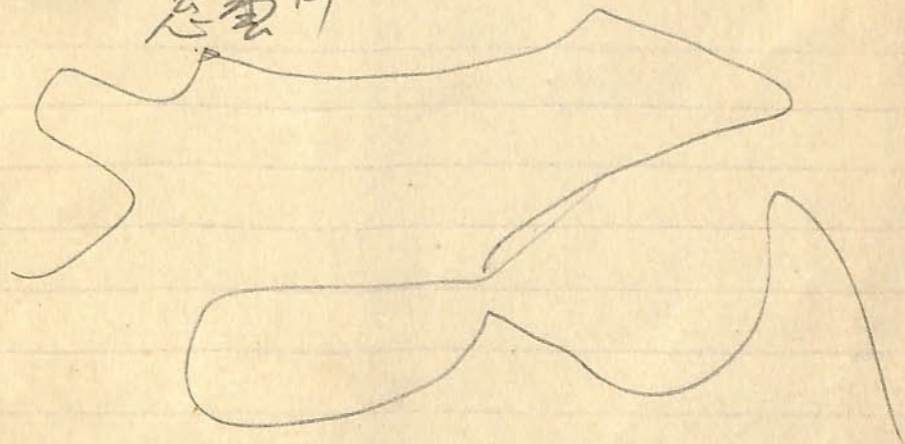
自国領と宣言せらるるであらう
かかる状態に於ては、古くは^同この辺の漁場を
余見し開拓した先人に対しても相済み済みで
あつた。又現在の限られた日本近海の漁場の中の
最も有望なものを、そのまゝ見捨てる事は甚だ勿体
ない話であらう。

吾々は世人にこの島の現状を訴へ、一刻も早く
適切な處置をして、日本漁民の出漁出来る
事を願ふものである。



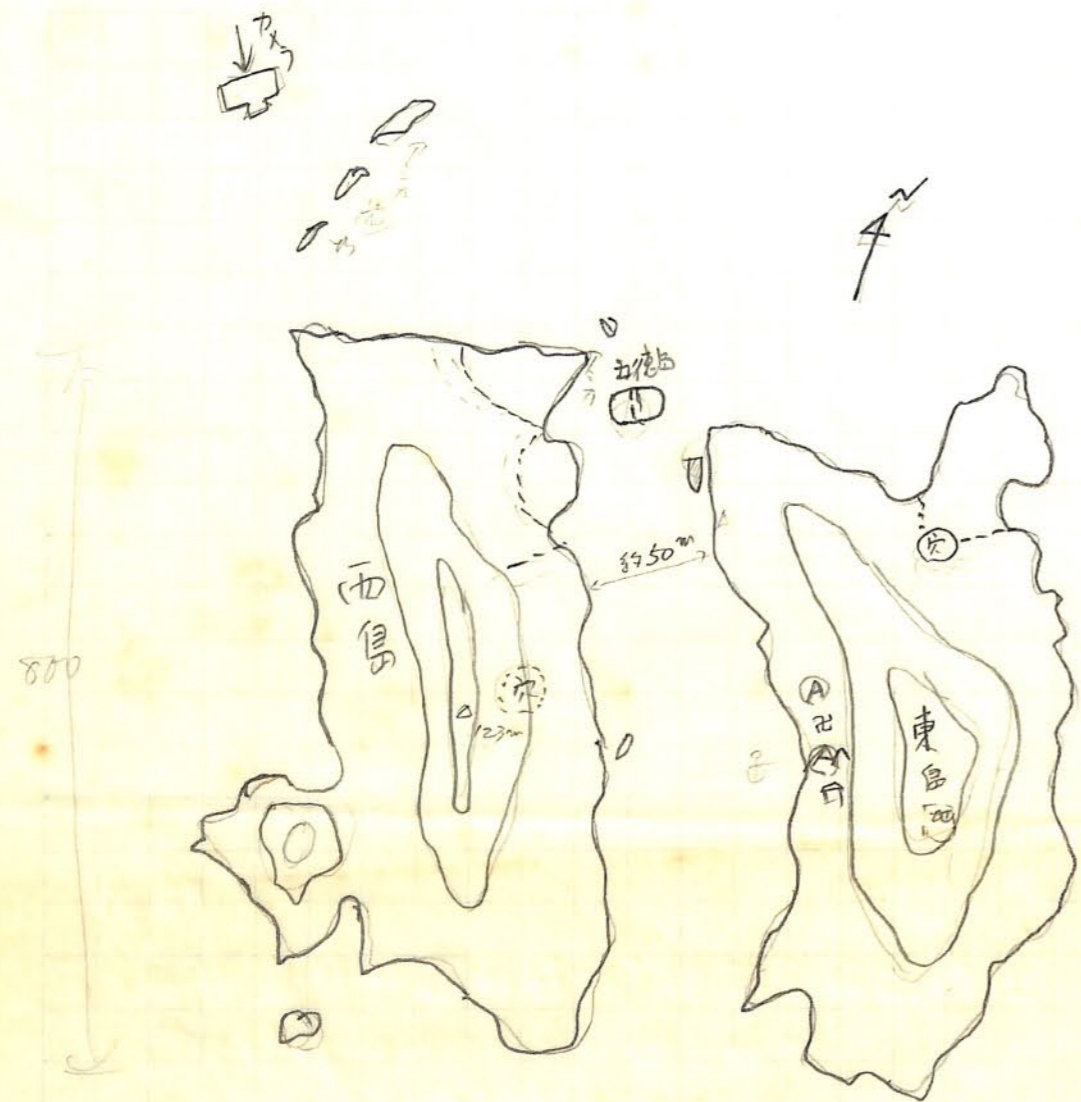
121

八柳 惠墨叶

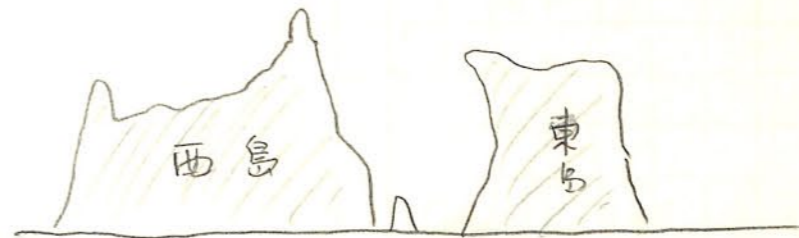


1. 竹島の由来について.
2. 位置、形状
3. 地形の概要.
4. 各島に棲息する動物
5. 漁法 (その)
6. 航海日記.
7. 各島の漁業の将来性 (漁業権の所収)
支那との関係

結言



南方眺望



西北方眺望



南西方遠距離眺望

